

新「共通特論Ⅱ」：臨床腫瘍学各論
食道がん、胃がん、大腸がんに対する個別化治療

講義日：2024年1月27日（土）

講師：門脇 重憲（愛知県がんセンター 薬物療法部 医長）

要旨

食道がんにおいては免疫チェックポイント阻害薬の有効性が示され、治療開発の中心となっているが、さらに HER2 や FGFR に対する標的薬剤や抗体薬物複合体などの新規薬剤が期待される。胃がんにおいては免疫チェックポイント阻害薬に加えてトラスツズマブやトラスツズマブ・デルクステカンなど HER2 標的薬剤の有効性が示されてきた。近年、適切なバイオマーカーの選択や薬剤改良などにより、HER2 に加え FGFR、MET、Claudin18.2 に対する標的薬剤の有効性が示唆されており、今後の治療開発に期待される。大腸癌においては、治療選択に際し、MSI-H、*BRAF* 変異、*RAS* 変異の有無と局在性を考慮する必要がある。最近、*KRAS* G12C を中心とした *RAS*、HER2、MSI などを標的とした治療開発が活発に行われている。本講義では、食道がん・胃がん・大腸がんにおける個別化治療の状況や今後の展望について概説する。